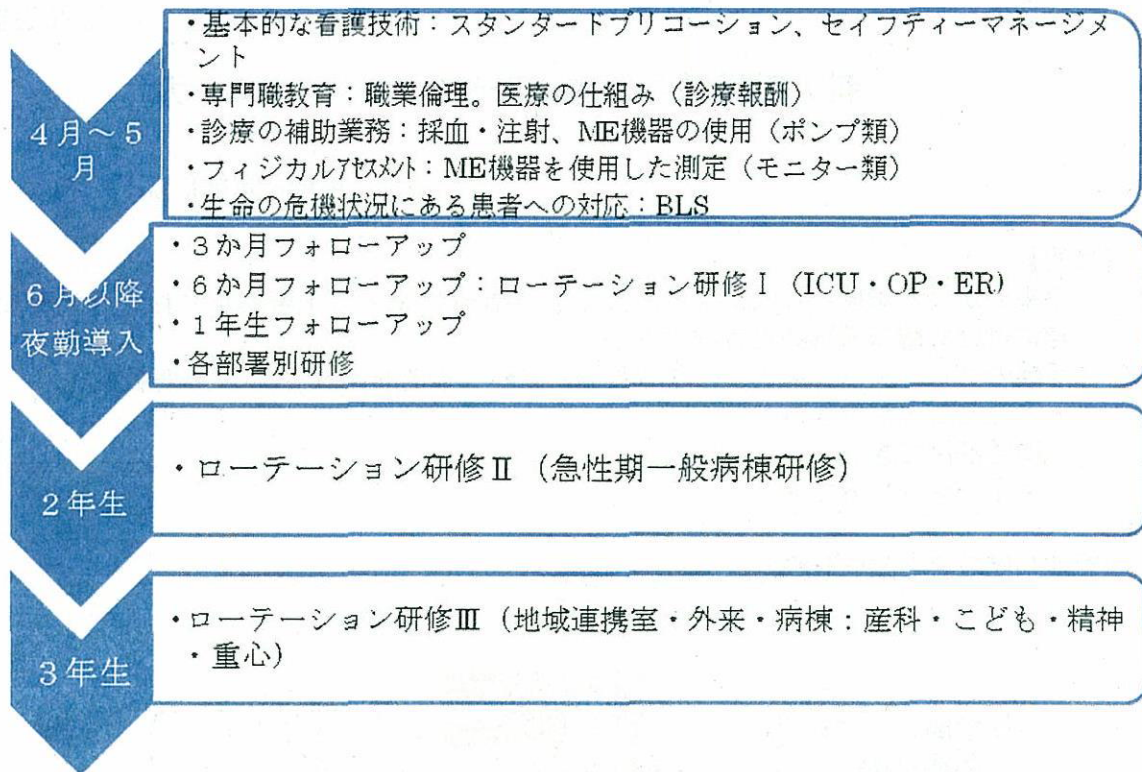


【研修期間と内容】



【研修の評価】

（資料1）

- 1年目>2年目>3年目の順で、基礎教育と臨床現場との乖離が大きいと感じている。
- 1年目、2年目、3年目とも生体侵襲が高い看護技術については、基礎教育との乖離が大きいと感じているが、2年目が最も大きいと感じている。

これらのことから、

1. 臨床研修においては、生体侵襲が高い看護技術を中心のプログラムが必要である。
2. 1年時の研修によって、生体侵襲が高い看護技術を習得している。したがって基礎教育と臨床現場の比較検討が可能になり、2年時に乖離が大きいと認識できる。つまり臨床研修は1年間程度の期間が必要であると考える。

（資料2）

- 1年目を経時的にみると、はじめは自己の未熟さや職場の人間関係に戸惑っているが、6か月頃、そして1年後には専門職業人として必要な課題を認識できている。
- 1. 臨床研修の方法は、研修したことを臨床現場で実践する。研修→実践の繰り返しプログラム
- 2. 学びの経過から、臨床研修は1年間が適当な期間と考える。
- 3. ローテーションについては、人間関係の構築がある程度できた6か月頃から行なうことが望ましい。

（資料3）

○「臨床現場は今日より明日により高い看護能力が求められていると感じる」「自分が医療事故を起こすのではないかと不安を感じながら仕事をしている」

1. 過剰な不安を下げるような支援体制が必要であり、プリセプター、サポーターといった決められた役割の者だけでなく、部署全員の支援が受けられるような屋根瓦式体制が必要である。